

生成AIリテラシー自己点検表

といのタネ

課題1つにつき1枚使います。A4で印刷し、手で書き込みます。

課題名: _____

締め切り: _____

使ったAI: _____

記入した日: _____

ステップ1 入力前に確かめる

ここでは、AIに打ち込む前に4つの項目に○か×を付けます。×が1つでもあれば、入力する内容を直してから始めます。

番号	確かめること	○×	直したこと
1	自分や友人の氏名・住所・顔写真・成績を入れていない。組み合わせで人が特定できない		
2	友人の作文や未発表の作品を、書いた人の許可なく貼り付けていない		
3	この課題でAIを使ってよいことを、課題の説明か先生の指示で確かめた		
4	使うサービスの利用規約を開き、年齢の条件を確かめた		

ステップ2 回答を読むときに確かめる

ここでは、回答の中の数値・固有名・日付に印を付け、省庁や自治体、大学の公開資料で1つずつ確かめます。確かめられなかった語を含む文は提出物に入れません。

項目5 印を付けた語	確かめた資料名と発行元	発表日	合っていたか
記入例: Ver.2.0の公表日	文部科学省 生成AIの利活用に関するガイドライン	令和6年12月26日	合っていた

項目6 回答の情報はいつ時点のものか: _____

項目7 自分の考えと違う点を1つ: _____

項目8 意味を調べた語と、その意味: _____

ステップ3 提出前に確かめる

ここでは、提出の前日に4つの項目を確かめます。AIの言い回しが残っていないか、段落ごとに読み直してから記入します。

番号	確かめること	○×	メモ
9	AIを使ったことを伝える方法を、課題の説明か先生に確かめた		
10	AIの言い回しを自分の言葉に直した。直した段落の数をメモに書く		
11	内容を30秒で口頭で説明できた		
12	使った資料の資料名・発行元・発表日を書いた。AIの回答そのものは出典にしていない		

ステップ4 30秒の説明と先生への質問

ここでは、家族か友人に30秒の説明を聞いてもらい、詰まった箇所と残った疑問を書きます。

説明を聞いてもらった人: _____

詰まった箇所: _____

詰まった箇所を直した方法: _____

先生への質問(申告の方法など): _____

記入例

課題名を地域の交通の探究レポート1,200字、使ったAIをチャット型AI1つとした場合の書き方です。

- 項目1は○です。部活名と学年を消し、地域名だけを残してから入力しました。
- 項目5では、回答にあったバスの路線数に印を付け、市の公開資料で数を確かめました。
- 項目7には、回答は便数の少なさを挙げていたが、自分は停留所までの距離が問題だと考える、と書きました。
- 項目10のメモ欄には、5段落のうち3段落を書き直した、と書きました。

×が残ったときの判断の軸

- ステップ1に×があるときは、入力する内容を直すか、AIを使わずに進めます。
- ステップ2で確かめられない語があるときは、その文を削るか、図書館や先生に資料の探し方を相談します。
- ステップ3の項目9が×のときは、提出前に先生へ質問してから出します。
- 3回分の点検表を並べて、×が同じ場面に偏っていれば、その場面の手順から見直します。